

凡例

1. 本目録は、北海道大学農学部博物館に収蔵されている動物標本のうち、折居彪二郎氏によって採集・作成されたものを収録したものである。
2. 目録は鳥類・哺乳類の順に記載し、それぞれ「世界鳥類和名辞典」(山階芳麿著)・「世界哺乳類和名辞典」(今泉吉典監修)の配列に基本的に従い和名および学名を記したが、日本産鳥類に関しては「日本鳥類目録」(改訂第6版、日本鳥学会、2000年)の分類および学名表記に従った部分がある。また、鳥類においては亜種の取り扱い、折居氏の種名記載などの点からも多少相違する部分がある。同一種内の配列は(1)雄・雌(2)採集年月日の順とした。
3. 目録の項目は、標本番号・雌雄等・採集地・採集年月日・備考としたが、折居氏によってつけられたラベルに記載されている特殊な種名についても標本番号の後に記した。採集年月日は当館データベースの関係上、一桁の数字に対しては0が記載される(1月6日 01月06日)。
4. 採集地のうち、国内採集のものについては基本的に採集データのまま記した。海外採集のものについては、以下の基準で記した。
 - ・ 現在のサハリン・クリル諸島で採集されたものについては、樺太・千島採集とし、地名についても折居氏が採集した当時のままとする。
 - ・ 朝鮮半島で採集されたものについては折居氏の採集日誌と照合し、ローマ字表記から漢字表記に改めた。表記例は以下になる。括弧内は折居氏の表記法。ただし詳細不明のものは折居氏の表記のままに掲載した)
 - 朝鮮龍岩浦 (Riugampo Korea/ Riugampo W.Korea 等)
 - 朝鮮木浦付近智島 (Chi To Isl. Near MoppoS.Korea)
 - 朝鮮農事洞 (Non Sa Ton Korea/ Non Sa Ton N.Korea)
 - 朝鮮金剛山長箭 (ChianZen,Korea/ Chianzen Kongo M.Korea 等)
 - ・ 台湾・旧満州・南洋諸島・中国南部で採集されたものについても上記と同様だが、ローマ字によるデータから採集地の特定が困難な場合、原データのままとした。
5. 備考に記されるデータは折居氏によって記入されたものだが、計測値の単位に尺貫法を用いている場合は、ミリ・グラムに換算した。
6. 本目録の作成には学芸員加藤があたった。ラベル破損等の標本の同定は市川が行った。なお、哺乳類の同定には阿部永氏に協力を依頼し、備考欄にその検討内容を記載してある(" "で括って表記)。また、台湾及び満州の地名の確認には山階鳥類研究所研究員平岡考氏に協力していただいた。
7. 折居氏の採集略年表に掲載されている採集行程と一致しない標本が存在するため、採集年代の明らかなるものをその採集日順に配列した一覧を末尾に加えた。この一覧には標本番号、標本名、採集地、採集日のみを掲載してある。各資料のデータは前半の目録を参照されたい。一致しない理由は現在のところ明らかとならないので、利用に際しては注意されたい。